

子どもを守る安全・安心の学校を！

～感染症の拡大防止、学校再開にむけて～

2月27日夜、安倍首相は、新型コロナウイルス感染症への対応として、専門家への相談や政府内での検討もありません。突然、全国すべての小・中・高校、特別支援学校の一律休校要請を行いました。

この報道を受け、保護者や教職員はもとより、家庭や学校現場も、社会全体が大混乱に陥りました。また、その対応で、それぞれがたいへんな困難を強いられました。仮に休校にすることで、現場の意見を聞き、準備期間を確保できる見通しをもったやり方であればなりません。

都内ほとんどの区市町村で、春休みまでの休校措置がとられました。その結果、臨時休校による子どもたちの精神的ダメージや健康面での不安、保護者が家にいない状況での見守りや居場所づくりの困難、学校再開の見通しなく、保護者をはじめ多くの都民から懸念の声が上がりました。

都教組は、2月28日と3月4日、都教委に対し、感染症対策の徹底を求めるとともに、改めて、子どもたちの精神的・身体的・社会的ケアや学習・発達権の保障、安心して休校の対応についての再検討など、緊急の申し入れを行いました。また、支部・地区協でも地教委に対し、要請を



発行所
東京都千代田区二番町12-1
エデュカス東京(全国教育文化会館)
東京都教職員組合
電話 (3230) 3891

1部100円(郵送料別)
組合員の購読料は組合費に含む

都教組ホームページ

http://www.tokyousou.jp/

無料法律相談

都教組では、組合員対象に無料法律相談を行っています。都教組弁護士団の弁護士が、直接相談に応じます。

秘密は厳守します。電話で都教組にお問い合わせください。

☎03(3230)3891

組合・共済・ろうきんに多くの仲間をむかえ 都教組の「変える」力、「支え合う」力を強く

分會、支部・地区協、専門部の奮闘で、組合・共済加入が大きく前進

昨年度は、分會、支部・地区協、専門部のとりくみで、多くの組合・共済の仲間をむかえることができました。組合加入の6割、総合共済加入の8割が20・30代の青年教職員だったことは、要求実現と都教組の未来につながる希望です。

ある小学校分會では、ミニ学習会を重ね、さまざまな相談にも親身になって対応し、「都教組に入りませんか」と声をかけ、3人の青年を組合にむかえました。ある中学校分會では、若手組合員が学習会に誘ったり、都教組の魅力や伝えたりして、2人の仲間をむかえました。また、ある小学校の青年組合員は、職場でのつながりが大事だと思



し、子どもと教職員のいのちと健康を守るため、感染症対策のための条件整備を求めるとともに、子どもたちの心身のケア、学習の遅れを回復するためのカリキュラム編成が、子どもや教職員の過重負担にならないよう学校裁量の保障、また、国・都・区市町村段階での「学力テスト」の中止などを求め、さらなる申し入れを行いました。

今回の臨時休校の中で、子どもたちの学校への思い、学

校の役割、学校という存在の重要性を、改めて考える契機ともなりました。

都教組は、4月1日、都内の感染状況を踏まえ、都立学校の臨時休業を5月6日まで延長するよう通知し、区市町村にも協力を求めました。

都教組は、感染症対策の具

することや「変形労働時間制」導入阻止・長時間過密労働の解消、ハラスメント根絶、そして賃金、労働条件の改善など、子どもと教育、教職員を守るためには、組合・共済・ろうきんの仲間を増やし、都教組の「変える」力、「支え合う」力を強くすることが欠かせません。

年度のスタートは、新採者や転入者、青年を中心とした教職員一人ひとりに、組合・共済・ろうきんへの加入の声をかけます。絶好のチャンスです。例年4月に一番多くの仲間をむかえています。

昨年度も何人もの新採者が、職場でハワハラを受けたり、自主退職を余儀なくされたりしています。新採者には、雇用と身分を守るため、すぐにも組合に入ってもらいたいことが必要です。

臨時任用教職員(期限付、産育休代替)も含め、組合に入ることで、理不尽な対応から自分を守ることができま

また、多くの情報も得られ、学ぶことで自分を「変える」力にもなります。

さらに、今年度から、一般職となる都費時間講師も都教組に加入できるようになりま

都教組青年部では、新採者を歓迎し、青年が学びつながら場として「新歓ジャンプ2020」を開催します。

青年組合員はもちろん、中堅・ベテラン組合員も、職場や地区の新採者や青年教職員を誘って、一緒に参加ください。



昨年(2019)の新歓ジャンプ

- 「日時」** 4月25日(土) 14時～
- 「会場」** エデュカス東京7階
- (全体講演)「子どものからだは心は今、どうなっているのか?」光・暗闇・外遊び、ワクワク・ドキドキのススメ
 - 講師 野井真吾さん(日本体育大学教授)
 - 何でも相談会(小学校、中学校、特別支援学校ごとに)
 - 終了後、交流会もあります
 - 参加費 無料
- *新型コロナウイルス感染症対策により、延期または中止となる場合があります。
- (都教組HPをご覧ください)

「えがお署名」がスタート

奨学金を受けた大学生が社会に出てそれを返済する場合、数百万円もかかると言われています。給付制奨学金制

度が始まったとはいえ、世界的に見ても日本の学費は高く、学費の心配なく安心して学生生活を送るには、まったく不十分です。

国の2020年度の予算は、102兆円6000億円あまりです。しかし、学校教育費にかかわる文教科学費は、昨年度より減らされ5兆

5000億円、一方、防衛費は増え続け、昨年度より1%増の5兆3000億円です。

予算の使い方を考えれば、教育の無償化、教職員定数の抜本的改善、35人学級の実施などは十分可能です。

秋のゆきとどいた教育を求める署名とともに、この春の「えがお署名」を、職場や地域で大きくひろげ、教職員の長時間労働を解消し、教職員定数の抜本的改善を求めたい

春流

明るく春の陽ざし、入学、進級、異動。子どもたちや職場の仲間との新たな出会いの中、キラキラした思いで迎える新学期。

しかし、今年の4月はどうな

気持ちで新学期を迎えているだろうか? 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月27日夜、安倍首相による突然の全国一律「臨時休校」の要請。子どもの健康はもちろん、保護者不在の中での子ども達の居場所、昼食の問題など、家庭学校、学童クラブ、保育園などは、不安の中で対応に追われた。子どもたちの1年間のまとめの時期でもある3月、卒業を前に進路先を決める時期でもあった。学校が果たしている役割の大切さと幅広さに改めて気づく。学力保障や未履修になってしまった単元をどうするかという問題もある。電子媒体を通じての学習や子どもたちのやり取りなども報道されていたが、実態はどうだろうか? 「早く学校が始まってほしい。友だちに会いたいから」。SNSでつながることができても、やはり人と人は直接会うことが基本なのだ。この間、さまざまな会議や集会も延期されたりネットでのやり取りになったりした。どうも元気が出ない。帰りの電車、具合の悪そうなお年寄りに声をかけたところ、周囲の若者が何人も手助けしてくれて心が温かくなった。不安定な社会の中、子どもたちや働く仲間とともに、人間を大事にした優しい関係を育てていきたい。(名)